

小学校教員養成課程における教室で使用する英語力と活用力の向上の プログラムの効果

— 配信動画を活用した自主学習と授業中のテスト —

執行 智子¹ カレイラ 松崎 順子²

¹ 白梅学園大学子ども学部 〒187-0032 東京都小平市小川町 1 丁目 830

² 東京経済大学全学共通教育センター 〒185-8502 東京都国分寺市南町 1-7-34

E-mail: ¹ shigyo@shiraume.ac.jp, ² carreira@tku.ac.jp

あらまし 小学校教員養成課程の学生の英語力向上のために、配信動画を活用した自主学習と授業中のテストを組み入れたプログラムを「初等英語教育法」で実施した結果、参加者の認識語彙は自主学習前に比べ期間終了直後に上昇していた。さらに、自主学習終了後に行われた模擬授業の後においても維持されていた。模擬授業のために作成された学習指導案には、自主学習で学習した学級運営に必要である挨拶や指示、注意、誉めるなどのクラスルーム・イングリッシュを参加者が多く活用していたことが、また、参加者の振り返りから配信動画を自分のやり方で自主学習に取り込んで学習していたことがわかった。

キーワード 小学校英語、担任教員、クラスルーム・イングリッシュ、自主学習、配信動画

Effect of the Classroom English Program for Elementary-Teacher-Training Course

— Autonomous learning with YouTube and Tests at School —

Tomoko SHIGYO¹ and Junko MATSUZAKI CARREIRA²

¹ Faculty of Childcare and Education, Shiraume Gakuen University 1-830 Ogawa-cho, Kodaira-city, Tokyo 187-0032, Japan

² Center for General Education, Tokyo Keizai University 1-7-34, Minami-cho, Kokubunji-city, Tokyo 185-8502 Japan

E-mail: ¹ shigyo@shiraume.ac.jp, ² carreira@tku.ac.jp

Abstract The purpose of this study is to report how helpful the program of English pedagogy in elementary school including video distribution and tests in class is for pre-service students in the elementary-school-teacher-training course of the university to master classroom English. The result shows that the number of words that were recognized by the participants increased and that the difference between pre and post tests was significant. It is also found that the participants used the learned classroom English in their microteaching, and that they developed various ways of learning classroom English by using the video on their own.

Keywords English at elementary school, homeroom teacher, classroom English, autonomous learner, video distribution

1. はじめに

多くの小学校担任教員が自らの英語力不足のために「外国語（英語）」の授業を行うことに不安を持っている。しかしながら、小学校教員養成課程「初等英語科教育法」において英語力向上のために多くの時間を割くことは難しく、学生たちが将来担任教員となっても同じ不安を抱くことが予想される。そこで、自ら必要に応じた英語学習を進めることができる小学校教員を

育成することが望ましい。最近では、いつでもどこでも視聴でき、自らの学びの方法を開発できる配信動画が教材として多く活用されている。その一方、それらをもっと効果的に使用するためには、ただ教材として配信動画を提供するにだけではなく、学習者が学習ツールとして使用できる仕組みが必要であることも指摘されている(Putri, 2019)。

本研究では、小学校教員養成課程の学生のクラスル

執行智子・カレイラ松崎順子, “小学校教員養成課程における教室で使用する英語力と活用力の向上の
プログラムの効果

— 配信動画を活用した自主学習と授業中のテスト —”, 言語学習と教育言語学 2023 年度版, pp. 21-30,
日本英語教育学会・日本教育言語学会合同編集委員会編集, 早稲田大学情報教育研究所発行, 2024 年 3 月 31 日.

Copyright © 2023-24 by Shigyo, T., & Matsuzaki Carreira, J. All rights reserved.

ーム・イングリッシュの習得のために配信動画を活用した自主学習と授業中のテストを用いた英語力とその活用力の向上を目指したプログラムを小学校教員養成課程「初等英語科教育法」に導入し、参加者の語彙認識が向上するかどうか、また模擬授業でそれらを活用することができるかどうかを検証することを目的とする。

2. 先行研究

2.1. クラスルーム・イングリッシュの必要性

2020年から小学校5～6年生において教科となった「外国語（英語）」、小学校3～4年生に新たに導入された「外国語活動」では、「授業の雰囲気作り」（文部科学省, 2017a, p. 118）や英語使用者モデルの提示として、教師のクラスルーム・イングリッシュの使用が奨励されている（文部科学省, 2017a）。教師の積極的な英語使用は、「児童が一生懸命に教師の英語を聞こうとする態度を引き出すこと」（p. 118）に繋がるからである。これに伴い、クラスルーム・イングリッシュの習得が、教員養成や教員研修の内容に含まれている。たとえば、文部科学省（2017b）が示した「大学の教職課程共通的に修得すべき資質能力」を受けて作成された「教員養成・研修 外国語（英語）コア・カリキュラム」（東京学芸大学, 2015）には、小学校教員養成課程において「技術指導」として以下が挙げられている。

- (1)英語での語りかけ方
- (2)児童の発話の引き出し方・児童とのやりとりの進め方、

また、教職1～3年目研修では「研修で扱う項目」のうちの「英語力」には、

- (1)発音や強勢、リズム、イントネーションを意識した会話ができる英語力

教職4～9年目研修では

- (1)クラスルーム・イングリッシュを土台に意味のあるやりとりができる英語力
- (2)児童の発話や行動に対し、適切に対応できる英語力

教職10年目以降の研修では

- (1)児童が理解できない英語を児童に分かるように言い換えることができる英語力

小学校教員養成課程ではいささか抽象的な表現で身につけるべき英語での指導技術が述べられているが、教職研修では、具体的に「発音」や「英語力」、特に、教職4～9年目研修でははっきりと「クラスルーム・イングリッシュ」という言葉が用いられている。

2.2. クラスルーム・イングリッシュの習得の現状

これまでの小学校教員養成の学生や現職小学校教員

への調査では、「外国語・外国語活動」を行う際の不安材料として、教員自身の英語力の不足が上位を占めている（イーオン, 2021; 猪井 2009; 松宮, 2010; 大槻, 2020）。イーオン（2021）の調査では、授業運営が「あまり自信がない・不安のほうが多い」「うまくいっていない」（p. 4）と回答したもののうちの多く（3～4年生で47%、5～6年生で35%、いずれも最多）が「教えるのが難しいと感じている項目」として「スピーキング（やりとり）」（pp. 4-5）を挙げている。このことから、教員自身が、児童との英語でのやりとりを難しく感じ、その結果、授業運営に不安を抱いている教員が多くいることがわかる。

さらに、教員自身が必要であると思っている研修項目の調査においても、自身の英語力向上のためのプログラムが教科化の以前も以後も変わらず上位を占めている（猪井, 2009; Kusumoto, 2008; 日本英語検定協会, 2016; 山内・作井, 2020）。たとえば、山内・作井（2020）では、小学校教員へのアンケートから研修に必要なものとして「自分自身の英語力を高めるもの（発音・基礎知識・即効力のある表現・学習用語・教室英語など）」（p. 191）が「授業の進めかた（指導力 / 指導法・単元作成の方法・授業の組み立て方・TT）」（p. 191）に次いで2位であったと報告されている。

一方、表1に挙げた小学校教職課程のコア・カリキュラム（東京学芸大学, 2017）では、「授業実践に必要な英語力」は、「外国語の指導法」（2単位）にはなく、「外国語に関する専門的事項」（1単位）にのみ含まれている。「外国語に関する専門的事項」に含まれる全8項目のうち「授業実践に必要な英語力」は4項目を占めていることから、単純に計算すると6時間のみを英語力向上に費やせることになる。（表1参照）

表1 小学校教員養成課程外国語（英語）の学習内容

科目	領域	項目数
外国語の指導法	授業実践に必要な知識・理解	10
	授業実践	8
	授業観察や体験	2
	模擬授業	1
外国語に関する専門的事項	授業実践に必要な英語力	4
	英語に関する背景的な知識	4

また、イーオン（2021）による現職教員のアンケートの結果では、1日あたりでは「自身の英語スキルアップにかけられる時間」について「全く取れない」あるいは「1日1時間未満」と回答した教員が8割以上おり、また、1週間あたりでは約7割の回答者が「全く取れない」あるいは「1時間未満」と回答している。

このことから、英語のスキルアップのために時間をわざわざ割くことは難しい状況であることがわかる。

以上のことから、小学校教員は自らの英語力に不安を抱えている者が多く、また、英語力不足が「外国語」や「外国語活動」の授業の運営に影響を及ぼしていることがわかる。それにも関わらず、教員養成においても現職教員においても、自身の英語力向上のために割ける時間はわずかであるのが現状なのである。

2.3. 配信動画の活用と自立した学習者

Gardner and Miller (2001) は、自律した学習者の環境には、学習者が自分の必要や欲求を満足するために使用する学習教材の提供と学習方略、振り返りや責任を促進する計画が必要であると述べている。

近年、自主学習教材として配信動画が活用されており、語学学習においても例外ではない。配信動画と語学学習の研究も多く行われている（萱, 2013）。野本・平塚（2019）は、英語の予習教材としてオンライン教育システムである Moodle を活用した動画を作成し配信した。視聴した学生の動画の視聴回数と学期末筆記試験の点数の間に相関は見られなかったが、「家で好きな時間に勉強できる」（p. 32）や「分からない単語の発音を聞くのに、動画だと何回も再生できるので良かった」（p. 32）など、「多くの学習者が予習動画に対して良い印象を持った」（p. 32）り、積極的に学習に取り組んでいることがわかった。

また、学習を目的とせず作成されている「音声付きの動画を自由に投稿・閲覧することができるインターネット上で動画共有サービス」^[注]サイトである YouTube においても、以下のことから学習教材として注目されている。YouTube は

- 目と耳から情報を得ることができることから、英語の聞き取りや内容理解を促進し、記憶に留めやすい（Zaidi, Awaludin, Karim, Ghani, Rani, and Ibrahim, 2018）
- 学習用教材とは異なり現実の世界での生の英語に触れている状態を作り出し、学習者は主題を深く理解しようとするので動機付けが上がり言語スキルも向上する（Zaidi et. al., 2018）
- 教師が 4 技能を取り込んだ有意義なアクティビティを作ることができる教材である（Zaidi et. al., 2018）
- 学習者に異文化に気づきや英語を lingua franca としてとらえさせる機会を与える（Dizon, 2022）
- 学習者が自分に合った学習方法を見つけ出し、いくことができる教材である（Zaidi et. al., 2018）とされている。

Putri (2019) の調査では、YouTube は自分の言語学習

の到達目標達成のための重要なツールであり、目標達成のためより迅速で効果的なツールであると大学生と大学院生は捉えていると報告している。

大学生を対象とした Zaidi et. al. (2018) の調査では、YouTube を使うことで 8 割以上の学生が英語がよりよくわかる、7 割以上が授業外の英語の学習の動機づけになる、9 割以上が集中できる、7 割以上が自分の学習を管理しやすいと述べている。また、YouTube は便利で入手しやすく使いやすい点も 9 割の学生が挙げている。

一方、学習者が YouTube を自身の学習過程を管理する道具として用いるためには、メタ認知方略の情報や ICT の資料、使用方法のガイダンスなどを提供すべきであると Putri (2019) は示唆している。

以上のことから、YouTube は、学習者に活用する方法の案内をすることで、学習者が必要や欲求を満たすことのでき、学習方略、振り返り、さらに責任を促進する計画性を補うことができる、つまり、自律した学習者のための環境（Gardner and Miller, 2001）を作り出すことができる学習教材であるといえる。多くの時間を英語力の向上のために割くことができない日本の教員養成課程にいる学生や現職小学校教員も YouTube を活用することで自律した学習ができるのではないだろうか。

3. 本研究の目的

小学校英語においてクラスルーム・イングリッシュは教室において重要な役割を果たすとされているが、小学校教員養成課程「初等英語科教育法」ではこのクラスルーム・イングリッシュの習得に十分な時間を割くことができない。そこで、配信動画を活用した自主学習と授業中のテストを用いた英語力と活用力の向上を目指したプログラムを小学校教員養成課程「初等英語科教育法」に導入し、参加者の認識語彙が増加するか、また、学習したクラスルーム・イングリッシュを模擬授業で活用することができるかを検証することを目的とする。よって、以下のリサーチ・クエスチョンを立てた。

リサーチ・クエスチョン

1. 配信動画 YouTube によるクラスルーム・イングリッシュの学習により参加者の認識語彙は増加するだろうか。
2. 配信動画 YouTube で自主学習した参加者はどのようなクラスルーム・イングリッシュを模擬授業で活用するだろうか。
3. 配信動画 YouTube によるクラスルーム・イングリッシュの学習を参加者はどのように受け止めるであろうか。

4. 本研究の方法

参加者は都内にある大学の小学校養成課程に在籍する3年生48名(2クラス、各クラスは25名と23名)である。

配信動画を活用した自主学習と授業中のテストを用いた英語力と活用力の向上を目指したプログラムは以下のとおりである。

【プログラム】

「初等英語教育法」の各回(全14回のうち、2~8回)において、

1. 参加者は課題となるクラスルーム・イングリッシュテストの配信動画を視聴し自主学習する。
 2. 授業では、クラスルーム・イングリッシュ・テストとして課題となっている配信動画に含まれるクラスルーム・イングリッシュのうちの10文が出題される。
 3. テスト終了後、解答と解説、口頭練習を行う。
- 自主学習として使用された配信動画に含まれるクラスルーム・イングリッシュのテーマとurlは以下のとおりである。

A. 『授業の最初と最後の挨拶の教室英語【クラスルームイングリッシュ】』(35文)

https://www.youtube.com/watch?v=yFxX_3OspKk&list=PLBiorwP4nYM1dkG4D8d5oT0GOpEyZer-O

B. 『ALTと英語でコミュニケーション クラスルームイングリッシュ』(28文)

<https://www.youtube.com/watch?v=fnrlsaXuZb8&list=PLBiorwP4nYM1dkG4D8d5oT0GOpEyZer-O&index=3>

C. 『指示・注意・誉めるときのクラスルームイングリッシュ【教室英語】』(44文)

<https://www.youtube.com/watch?v=o1gKvbimpv4&list=PLBiorwP4nYM1dkG4D8d5oT0GOpEyZer-O&index=4>

D. 『ゲームのクラスルームイングリッシュ【ゲームの指示に使う教室英語】』(30文)

<https://www.youtube.com/watch?v=QrKZ9WaeOFg&list=PLBiorwP4nYM1dkG4D8d5oT0GOpEyZer-O&index=6>

E. 『TPR【全身反応教授法】のクラスルームイングリッシュ 外国語活動』(37文)

<https://www.youtube.com/watch?v=pSeYIiwSrKU&list=PLBiorwP4nYM1dkG4D8d5oT0GOpEyZer-O&index=7>

F. 『算数を英語で学ぼう!算数のCLIL教材 図形【クラスルームイングリッシュ】』(48文)

<https://www.youtube.com/watch?v=F3UrZcY-bGo>

G. 『クリル・CLIL・内容言語統合型学習のクラスルー

ムイングリッシュ』(60文)

<https://www.youtube.com/watch?v=4lGbTc3Zrac&list=PLBiorwP4nYM1dkG4D8d5oT0GOpEyZer-O&index=8>

授業中に実施したクラスルーム・イングリッシュテスト(配信動画A)の例は以下のとおりである(表2参照)。

表2 授業中に行われるテスト

1	自己紹介をします。	introduce myself.
2	では今日の授業をはじめます。	Now let's _____ today's lesson.
3	手をあげてハイと言ってね。	Please _____ your hand and say, "Here."
4	今日は何月何日?	What's the _____ today?
5	今日は何曜日?	What _____ is it today?
6	今日の天気はどうか。	_____ is the weather today?
7	今日は蒸し暑いね。	It's very _____ today.
8	今日はこれで終わりです。	That's _____ today.
9	今日はみんなよく頑張ったね。	You all _____ hard today.
10	また次回会いましょう。	_____ next time.

配信動画を活用した自主学習と授業中のテストを用いた英語力と活用力の向上を目指したプログラムが参加者の認識語彙の向上と模擬授業での活用にあげば影響と参加者がどのように感じたかについて明らかにするための調査方法は以下のとおりである。

【データ収集と分析方法】

データ収集と分析方法は以下のとおりである。

1. 配信動画を学習する前(事前)、配信動画学習最終回(事後1)、模擬授業後(事後2)においてCan-do Testを実施し、量的に分析する。

Can-do Testは配信動画で学習するクラスルーム・イングリッシュのうち36項目からなり、参加者が「完璧にいうことができる」(4点)、「ほぼ言うことができる」(3点)、「少し言うことができる」(2点)、「言うことができない」(1点)から選択し回答するようにした。実施時期は、以下のとおりである。

事前	第1回目授業中
事後1	第8回目授業中
事後2	第14回目授業中

なお、事後1から事後2の間には、授業において模擬授業準備、指導計画案の作成、模擬授業が実施されている。

2. 参加した学生が作成した学習指導案(4単位時間分)に含まれていたクラスルーム・イングリッシュを抽出し質的に分析する。本研究で分析する学習指導案は、模擬授業(20分)のためにグループで作成した学習指導案(4単位時間分)を、模擬授業終

了後、児童役の学生から受けた「良かった点」「改善すべき点」を踏まえて、各自修正したものである。また、学習指導案には授業が具体的にどのように行われているか分かるように、また、実際に児童とのやりとりを記載するよう指示されている。

3. 模擬授業終了後の参加した学生の感想（自由記述）にある、配信動画によるクラスルーム・イングリッシュの学習に関する内容を質的に分析する。

5. 結果

5.1 Can-do Test

配信動画 YouTube によるクラスルーム・イングリッシュの学習により参加者の認識語彙は増加するかを明らかにするために、配信動画を学習する前（事前）、配信動画学習最終回（事後1）、模擬授業後（事後2）において Can-do Test を実施し、それを *t*-test を用いて量的に分析した結果、以下の通りになった（表3参照）。

- ・ 事前-事後1では、36項目中35項目において有意差があった ($p < .05$)。
- ・ 事前-事後2では、36項目中全ての項目において有意差があった ($p < .05$)。
- ・ 事後1-事後2では、36項目中1項目において有意差があった ($p < .05$)。

表3 Can-do Test 結果

項目	事前		事後1		事後2		t値		
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	事前-事後1	事前-事後2	事後1-事後2
1	2.41	0.82	2.79	0.73	3.31	0.80	-3.07*	-6.35*	-3.75*
2	2.46	0.82	2.87	0.92	3.10	0.85	-2.91*	-4.75*	-1.39
3	2.90	0.91	3.72	0.51	3.85	0.43	-6.23*	-7.18*	-1.40
4	2.33	0.96	3.08	0.81	3.18	0.88	-5.11*	-5.66*	-0.70
5	1.74	0.85	2.33	0.87	2.49	0.85	-3.37*	-4.68*	-1.06
6	2.74	0.99	3.10	0.85	3.23	0.96	-2.21*	-3.56*	-1.09
7	1.38	0.54	2.28	0.86	1.92	0.84	-7.11*	-5.23*	2.27
8	1.38	0.59	2.15	0.87	2.05	0.89	-5.51*	-4.79*	0.75
9	2.33	0.93	2.74	0.82	2.97	0.74	-3.13*	-4.30*	-1.94
10	1.77	0.84	2.28	0.86	2.28	0.79	-3.13*	-3.30*	0.00
11	1.92	0.90	2.38	0.94	2.59	0.91	-2.69*	-4.79*	-1.43
12	2.28	0.83	2.77	0.90	2.82	0.97	-2.77*	-2.73*	-0.39
13	1.31	0.66	2.59	0.88	2.41	0.88	-7.45*	-6.58*	1.42
14	1.69	0.92	2.44	1.02	2.36	1.14	-4.95*	-4.03*	0.62
15	2.67	0.84	2.85	0.93	3.13	0.80	-1.19	-3.51*	-1.92
16	1.62	0.67	2.82	0.85	2.69	0.92	-7.13*	-6.34*	1.04
17	3.46	0.82	3.87	0.41	3.82	0.45	-3.13*	-2.57*	0.63
18	2.21	1.20	3.08	0.98	3.26	0.91	-5.04*	-6.57*	-1.42
19	1.51	0.76	2.54	1.02	2.31	0.95	-5.33*	-4.23*	1.50
20	2.13	1.08	3.05	0.97	2.97	0.93	-6.03*	-6.04*	0.60
21	2.36	0.84	3.36	0.67	3.18	0.76	-6.42*	-5.14*	1.56
22	1.44	0.55	2.69	0.92	2.36	0.90	-7.18*	-6.21*	2.18
23	1.49	0.82	2.69	1.00	2.64	0.93	-6.41*	-6.22*	0.36
24	1.54	1.00	2.95	0.79	2.64	0.81	-8.43*	-6.43*	2.02
25	2.72	1.05	3.72	0.56	3.41	0.91	-6.42*	-4.10*	2.31
26	1.44	0.60	2.67	0.87	2.26	1.02	-6.77*	-4.89*	2.52
27	1.23	0.58	2.51	0.91	2.10	0.97	-7.81*	-5.90*	2.65
28	1.85	0.78	2.36	0.87	2.49	0.94	-2.92*	-3.95*	-0.87
29	1.56	0.79	3.15	1.01	3.03	1.09	-9.08*	-7.68*	0.82
30	1.36	0.67	3.05	0.97	2.82	1.10	-9.57*	-8.15*	1.46
31	1.31	0.61	2.49	1.05	1.85	0.90	-6.08*	-3.29*	3.16
32	2.08	0.90	3.21	0.89	3.15	1.06	-6.67*	-6.06*	0.53
33	1.26	0.55	2.36	1.01	2.33	1.03	-6.58*	-5.94*	0.18
34	2.23	1.04	3.10	0.82	3.15	1.01	-4.93*	-6.03*	-0.40
35	1.08	0.35	2.18	1.02	1.90	0.94	-6.43*	-5.44*	1.99
36	1.03	0.16	2.21	1.08	1.87	1.00	-6.87*	-5.21*	2.25

* $p < .05$

5.2 学生の作成した学習指導案に含まれていたクラスルーム・イングリッシュ

YouTube 配信の動画で自主学習した参加者は、どのようなクラスルーム・イングリッシュを模擬授業で作成した学習指導案の修正版に活用するかを調査するために、参加した学生が作成した学習指導案に含まれていたクラスルーム・イングリッシュの文を抽出した。その結果、学習指導案に記載した総英文数は1001文、そのうち自主学習用配信動画に含まれていた文数は292文(29%)であった。また、自主学習用配信動画にある文とほぼ一致している文は32文で、自主学習用配信動画で学習した総文数(282文)の11.3%であった。以下、表4が抽出した文と記載した学生数および割合である。

表 4 指 導 案 に あ る 配 信 動 画 の 文 と 記 載 し た 人 数

テーマ	抽出された文	人数	%
A	What's the date today? *	37	77%
A	How is the weather today? *	36	75%
A	What day is it today? *	34	71%
A	How are you?	33	69%
A	Hello, everyone.	23	48%
A	That's all for today. *	20	42%
A	See you next time. *	16	33%
A	Goodbye, everyone.	9	19%
A	Now let's start today's lesson. *	8	17%
A	Good afternoon, everyone.	7	15%
A	Let's get started.	6	13%
A	Please raise your hand and say, "Here." *	6	13%
A, D	Time's up.	6	13%
F	Write your name in the upper right corner. *	6	13%
C	Good job.	5	10%
C	Great!	5	10%
D	How many points did you get?	5	10%
A	See you.	5	10%
A	Good morning, everyone.	4	8%
C	Work in pairs.	4	8%
A	Did you have a good time?	3	6%
C	Go back to your seat.	3	6%
C	Let's sing along. *	3	6%
D	Ready set, go.	3	6%
E	Hands up.	2	4%
C, D	Take one sheet and pass them on. *	2	4%
A	Did you enjoy today's class?	1	2%
D	Do you know how to play bingo? *	1	2%
A	How was it?	1	2%
C	Let's do the chant.	1	2%
C	Quiet, please.	1	2%
A	See you next week.	1	2%

*が付与している文は授業中のテストで扱ったものである。

上記の文のうち、

- 授業中のテストで扱った文が 11 文 (34%)

- 授業中のテストで扱わなかった文が 21 文 (66%) であった。また、これらの文が含まれているクラスルーム・イングリッシュの配信動画のテーマ (使用場面) を調査した結果、以下の通りとなった。

- A. 『授業の最初と最後の挨拶の教室英語【クラスルームイングリッシュ】』 …19 文 (59%)
 - C. 『指示・注意・誉めるときのクラスルームイングリッシュ【教室英語】』 …8 文 (25%)
 - D. 『ゲームのクラスルームイングリッシュ【ゲームの指示に使う教室英語】』 …6 文 (19%)
 - E. 『TPR【全身反応教授法】のクラスルームイングリッシュ 外国語活動』 …1 文 (3%)
 - F. 『算数を英語で学ぼう！算数の CLIL 教材 図形【クラスルームイングリッシュ】』 …1 文 (3%)
- (ただし、同じ文で異なるテーマに出現している文は重複して算出している。)

これを指 導 案 に 記 載 し た 学 生 数 を 表 し た も の が 表 5 で ある。

表 5 指 導 案 に あ る 配 信 動 画 の 文 の テー マ と 記 載 し た 人 数

テーマ	人数	割合
A. 『授業の最初と最後の挨拶の教室英語【クラスルームイングリッシュ】』	256	83%
C. 『指示・注意・誉めるときのクラスルームイングリッシュ【教室英語】』	24	8%
D. 『ゲームのクラスルームイングリッシュ【ゲームの指示に使う教室英語】』	20	6%
F. 『算数を英語で学ぼう！算数の CLIL 教材 図形【クラスルームイングリッシュ】』	6	2%
E. 『TPR【全身反応教授法】のクラスルームイングリッシュ 外国語活動』	2	1%

表 5 より指 導 案 に 記 載 さ れ た 配 信 動 画 に あ る クラ ス ルー ム ・ イ ン グ リ ッ シ ュ の 8 割 以 上 は、A に あ る 授 業 の 開 始 と 終 末 に 使 用 す る 挨 拶 の 文 で あ り、そ の 他 の も の は 1 割 を 超 え て は い な か っ た。ま た、B (『ALT と 英 語 で コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン クラ ス ルー ム イ ン グ リ ッ シ ュ』) と G (『ク リ ル ・ CLIL ・ 内 容 言 語 統 合 型 学 習 の クラ ス ルー ム イ ン グ リ ッ シ ュ』) は、一 致 し た 文 は な か っ た が、G に あ る 英 文 で 表 現 さ れ て い る 数 式 に お い て は、全 て 英 語 で は 表 記 さ れ て は い な い が 数 字 以 外 は 動 画 で 配 信 さ れ た 英 語 が 記 載 さ れ て い た。

5.3 YouTube 配信の動画によるクラスルーム・イングリッシュの学習を学習者の感想 配信動画 YouTube によるクラスルーム・イングリッ

シュの学習を参加者はどのように感じたかを調査するために、模擬授業終了後の参加した学生の感想にある配信動画によるクラスルーム・イングリッシュの学習に関する自由記述の内容を分類した結果、以下 a~h が抽出された。

- a. 動画について記述していた学生 …31名
- b. 動画による自主学習と記憶について記述していた学生 …15名
- c. 音声について記述していた学生 …13名
- d. 言語材料について記述していた学生 …12名
- e. 今後の活用について記述していた学生 …12名
- f. 配信動画の活用の仕方について記述していた学生 …9名
- g. 配信動画学習と授業の連携について記述していた学生 …6名
- h. 配信動画学習の効果について記述していた学生 …2名

<a. 動画について>

「a. 動画について」の記述では

- 1. 音声と文字が同時に出現することに関して (9名)
- 2. スライドの切り替わりに視聴者が音声を繰り返す間があったことに関して (6名)
- 3. 学習場所が限定的にならないことに関して (6名)
- 4. 画面構成に関して (4名)
- 5. 何度でも繰り返せることに関して (4名)
- 6. 速度変化ができることに関して (3名)
- 7. 動画の長さに関して (1名)
- 8. 動画の構成に関して (1名)

の8項目について述べられていた。最も多い記述である「1. スライドの切り替わりに視聴者が音声を繰り返す間があったことに関して (6名)」では、

「視覚的に綴りまで学べることはもちろん、正しい発音で学ぶことができるため、単語を黙々と読んで覚えることより身につけやすいと感じた」

などの記載があった。

「2. スライドの切り替わりにある程度の間があることに関して (6名)」には、以下の記載があった。

「動画に合わせて英語を繰り返し発音することで自然と頭の中に入ってきたため、英語の勉強がいつもより苦に感じなかった」

「3. 学習場所が限定的にならないことに関して (6名)」は以下の記載があった。

「電車の中や空いている時間に見ることができてとても良いと思った」

「場所を問わずに学習に取り組むことが出来るとても良い教材だなと思った」

「4. 画面構成に関して (4名)」には、以下の記載があった。

「日本語と英語が同時に書かれているスライドと、英語が出てきてから日本語訳ができてくるスライドがあったため、用途に合わせて再生することが出来た」

「5. 何度でも繰り返せることに関して (4名)」には、以下の記載があった。

「自分で繰り返し何度でも勉強し直すことができるのがいいと思った」

「6. 速度変化ができることに関して (3名)」には、以下の記載があった。

「聞き取りにくいと感じれば、速度を遅くしたり、逆に早めたりすることで、自分に合った速度で英語を聞き、学習することができた」

「7. 動画の長さに関して (1名)」では、

「動画の長さもそこまで長くないので、朝の通学の時間や空き時間、帰りの時間など、ちょっとした時間に聞くことができる」

があった。

「8. 動画の構成に関して (1名)」では、

「どのような場面で使うか分けられて聞くことができるので忘れてたりしてしまったときに見つけやすいし覚えやすいと思った」

があった。

<b. 動画による自主学習と記憶について>

次に、「b. 動画による自主学習と記憶について」の記述では、

- 9. 視覚聴覚で学習することに関して (12名)
- 10. 記憶に残りやすい要因に関して (3名)

の2項目について述べられていた。「9. 視覚聴覚で学習することに関して (12名)」では、

「単語を並べているだけではなく、音声付きなので、音声からだて無意識の間に頭に残る」

などがあった。

「10. 記憶に残りやすい要因に関して (3名)」では、

「最初の単語が出ると自然と口ずさむように英文が出てきて話すことができた」

があった。

<c. 音声について>

3番目に多かった「c. 音声について」の記述では、

- 11. 正しい発音が学べる (7名)
- 12. 自分の発音と比べられる (4名)
- 13. その他 (1名)

の3項目について述べられていた。「10. 正しい発音が学べる (7名)」では、

「動画だと正しい発音を覚えることができるので、アクセントの付け方を学べるし、間違った発音の防止にもつながる」

などの記載があった。

「12. 自分の発音と比べられる（4名）」では、「リピートすることで自分の発音と比較することができた」

などの記載があった。

「13. その他（1名）」では、「音声があり分からない発音を何回でも聞ける」

があった。

<d. 言語材料について>

「d. 言語材料について」の記述では、

14. 教師が使う、授業で使用する文が収録されていることに関して（7名）

15. 定型文、日常で使う文が収録されていることに関して（4名）

16. ALT とのコミュニケーションで使用できる文が収録されていることに関して（1名）

の3項目について述べられていた。「14. 教師が使う、授業で使用する文が収録されていることに関して（7名）」では、

「実際に外国語の授業を参観してみて、授業の最初と最後は必ずクラスルーム・イングリッシュが使われており、授業内容によっては授業中も使うということを考えたら、かなり学びになると感じた」

などの記載があった。

「15. 定型文、日常で使う文が収録されていることに関して（4名）」では、

「日常で使う語句をたくさん学ぶことができた」などの記載があった。

「16. ALT とのコミュニケーションで使用できる文が収録されていることに関して（1名）」では、

「ALT とのコミュニケーションのとり方を知ることができた」

があった。

<e. 今後の活用について>

「d. 言語材料について」と同数であった「今後の活用について」の記述では、

17. 教員になって活用することに関して（8名）

18. 自分のやり方で活用することに関して（2名）

19. その他（1名）

の3項目について述べられていた。「17. 教員になって活用することに関して（8名）」では、

「今回で終わらずに現場に行っても復習し、自信を持って進行できるようにしたい」

などの記載があった。

「18. 自分のやり方で活用することに関して（2名）」では、

「自分に合った速度で英語を聞き、学習することができるので今後も活用したい」

があった。

「19. その他（1名）」では、

「今後も活用してアウトプットできるようにしたい」

があった。

<f. 配信動画の活用の仕方について>

また、「f. 配信動画の活用の仕方について」の記述では、

20. 通学時間（電車の中で）の活用について（3名）

21. 具体的な活用の仕方について（6名）

の2項目が述べられていた。「20. 通学時間（電車の中で）の活用について（3名）」では、

「電車の時間など隙間時間に聞くと点数があがり自分に合った勉強方法を見つけることができた」などの記載があった。

「21. 具体的な活用の仕方について（6名）」では、「2回目の繰り返すところで、日本語に合った英語を書けるようにすると手を使って覚えることができるので自由に活用できた」

「英語⇒日本語、日本語⇒英語というように見る・聞くといった順序に注目して覚えたり、聞くだけで覚える、見るだけで覚える、など感覚を替えて覚えるなどいろいろ試行することも楽しかった」

などの記載があった。

<g. 配信動画学習と授業の連携について>

次に、「g. 配信動画学習と授業の連携について」の記述では、

22. 動画による自主学習と授業中のテストに関して（4名）

23. 動画による自主学習と授業中の模擬授業に関して（2名）

の2項目が述べられていた。「22. 動画による自主学習と授業中のテストに関して（4名）」では、

「動画を見ているだけでは実践的に使えないので、毎回の単語テストと共に活用することで、身に付いていると実感した」

などの記載があった。

「23. 動画による自主学習と授業中の模擬授業に関して（2名）」では、

「これらの文を授業で使うことを前提に覚え、模擬授業でやることで取り扱った文は今でもいうことができるので、インプットし実際に使うというアウトプットの重要性に気づいた」

があった。

<h. 配信動画学習の効果について>

「h. 配信動画学習の効果について」の記述では、

「音声を聞きながら学習していくので、日本語をみて英語の表現が頭に思い浮かべる時間がとても短くなったように感じた」（1名）

「簡単な表現でも、自信がなかったり、あやふやであったりしていることに気づくことができ、自分自身を成長させることができたかなと思う」(1名)の2名の記述があった。

最後に、配信動画の自主学習と授業中のテストを組み合わせたクラスルーム・イングリッシュの学習について、学び方が変わったという記述は以下の通りである。

「動画を見ながら授業で使う英文を学びましたが、自分が思っているより英文が記憶として定着していてとても嬉しかったです。」

「英語以外にも聞くようになりテストのための勉強ではなくなりました。着々と覚えられる自分に自信が持てますし、やってよかったです。」

6. 考察

6.1 YouTube 配信の動画によるクラスルーム・イングリッシュの学習により学習者の認識語彙

Research Question 1. 「配信動画 YouTube によるクラスルーム・イングリッシュの学習により参加者の認識語彙は増加するだろうか」を調査するために、配信動画を学習する前(事前)、配信動画学習最終回(事後1)、模擬授業後(事後2)において Can-do Test を実施し量的に分析した結果、事後1では事前より36項目中35項目において点数が有意に増加していたことから、配信動画 YouTube によるクラスルーム・イングリッシュの学習期間の直後においては、参加者の認識語彙は増加したと言える。

また、事後2では事前より全項目において点数が有意に増加し、事後2では事後1より36項目中7項目において点数が有意に増加していた。これらのことから、配信動画 YouTube によるクラスルーム・イングリッシュの学習期間を終了したのち、6週間後にも参加者の認識語彙の増加は維持されていると言える。これは、参加した学生が、配信動画 YouTube によるクラスルーム・イングリッシュの学習期間の6週間に模擬授業準備と模擬授業を行ったことで、繰り返しクラスルーム・イングリッシュを使用する機会があったことが原因として考えられる。自ら授業デザインを考える際に、いつでもアクセスできる YouTube を利用したことで、学生たちが、適宜模擬授業にクラスルーム・イングリッシュを取り入れることができるようになったからであり、Zaidi et. al., (2018) が述べている自ら自分に合った学習方法を見つけ出ししていくことができるようになったからだと思われる。

6.2 YouTube 配信の動画を自主学習したクラスル

ーム・イングリッシュの模擬授業での活用

Research Question 2. 「配信動画 YouTube で自主学習した参加者はどのようなクラスルーム・イングリッシュを模擬授業で活用するだろうか」を調査するために、学生が作成した模擬授業のための学習指導案の修正版に含まれていたクラスルーム・イングリッシュを抽出し質的に分析した結果、学生が学習指導案に記載した英文のうちおよそ3割が自主学習に使用した配信動画に含まれており、ほぼ学習した文と一致していた。さらに、そのうちのおよそ6割は、授業の最初と最後の挨拶のクラスルーム・イングリッシュであり、指示・注意・誉めるときのクラスルーム・イングリッシュ(25%)が後続していた。授業の最初と最後の挨拶のクラスルーム・イングリッシュはおよそ8割以上の学生の学習指導案に記載されていたことから、挨拶や指示、注意、誉めなどの学級運営上直接関係のあるクラスルーム・イングリッシュは十分に活用していることがわかった。

また、学生が作成した学習指導案に含まれた配信動画のクラスルーム・イングリッシュのうち、授業中のテストで扱った文は34%、扱わなかった文が66%であったことから、模擬授業用の指導案作成の際には、テストで確認した如何に関わらず、YouTube で自らが学習したクラスルーム・イングリッシュを活用していることがわかった。これは、目と耳から情報を得ることができる YouTube での学習が、英語の聞き取りや内容理解を促進し、記憶に留めやすく (Zaidi et.al., 2018) したからであると思われる。

6.3 YouTube 配信の動画によるクラスルーム・イングリッシュの学習に関する学習者の受け止め

Research Question 3. 「配信動画 YouTube によるクラスルーム・イングリッシュの学習を参加者はどのように受け止めるであろうか」を調査するために、模擬授業終了後の参加した学生の感想(自由記述)にある配信動画によるクラスルーム・イングリッシュの学習に関する内容を質的に分析した結果、学生の記述はおおよそ8項目に分類された。それらを詳細に見ると、およそ65%の学生が記述している「a. 動画について」は、YouTube の特性や配信動画の構成に関するもので占められており、その特性や構成が、記憶に残りやすい(「b. 動画による自主学習と記憶について」) (Zaidi et. al., 2018) や音声の確認ができる(「c. 音声について」) (Putri, 2019; Zaidi et. al., 2018)、さまざまな方法で自分の都合の良い時に活用できる(「f. 配信動画の活用の仕方について」) (Zaidi et. al., 2018) など使いやすさについての記述であった。

また、「d. 言語材料について」の記述から配信動画の言語材料が学生が求めているものと一致していることがわかる。これは、クラスルーム・イングリッシュは自らの英語力を高めるための言語材料（猪井 2009; イーオン, 2021; 松宮, 2010; 大槻, 2020）になり、小学校教員や養成課程の学生の外国語の授業実施への不安の軽減になる可能性があると言える（イーオン, 2021）。さらに、「g. 配信動画学習と授業の連携について」の記述から、小学校教員養成課程「初等英語科教育法」において配信動画の自主学習と授業中のテストを組み合わせることで、学生自身が自らの学習の管理に見通しをつけ、計画的かつ積極的に取り組むことができたことがわかる。つまり、本プログラムが学生に自らの学習方略を省みる機会（メタ認知方略）を提供したといえる（Putri, 2019）のではないかと思われる。

7. まとめ

小学校英語の教室において重要な役割を果たすクラスルーム・イングリッシュの習得に配信動画を活用した自主学習と授業中のテストを用いた英語力と活用力の向上を目指したプログラムを小学校教員養成課程「初等英語科教育法」に導入した結果、参加者の認識語彙は上昇し、自主学習期間終了後も、模擬授業準備と学習指導案作成で学習項目を使用したことで、認識語彙は維持されていた。また、学習期間後に作成した学習指導案において、参加者は挨拶や指示、注意、誉めるなど学級運営に必要であるクラスルーム・イングリッシュを多く活用していた。さらに、参加者の振り返りから YouTube の特性を自分の学習に取り込み、その利便性を強く感じていたことがわかった。

英語力に自信を持たず、英語の授業に不安を感じる教員が多くいる現状を打破するためには、教員自身が英語力向上のための学習方略を考え実行することが大切である。本研究では YouTube の配信動画を活用した自主学習と授業中のテストを用いたプログラムを教員養成課程「初等英語科教育法」に導入し、自主学習教材としての配信動画の有効性や可能性を検証したが、参加者が教員養成課程に在籍している間に、このようなクラスルーム・イングリッシュ習得と学習方略を自ら開発する体験をすることが何よりも重要なのではないかと思われる。

[注 1] weblio 辞書

<https://www.weblio.jp/content/YouTube>

文 献

Dizon, G. (2022). YouTube for second language learning: What does the research tell us?. *Australian Journal of*

Applied Linguistics, 5 (1), 19-26.

Gardner, D. and Miller, L.(2001). *Establishing Self-Access: From Theory to Practice*. Cambridge University Press.

イーオン (2021)「全国現役小学校教員を対象に『小学校の英語教育に関する教員意識調査 2021 夏』を実施コロナ禍で導入 2 年目に入った、小学校での英語教育の実態を調査」 from <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000030.000062811.html>

猪井新一 (2009)「英語活動に関する小学校教員の意識調査」『茨城大学教育実践研究茨城大学教育学部附属教育実践総合センター編』(28),49-63.

萱忠義 (2013)「言語学習におけるモバイル端末の新しい活用法」*学習院女子大学紀要*(15), 19-29

Kusumoto, Y. (2008). Needs analysis: Developing a teacher training program for elementary school homeroom teachers in Japan. *University of Hawai'i, Second Language Studies*, vol. 26, no. 2, 1-44.

松宮 奈賀子 (2010)「小学校教員を目指す学生の『外国語(英語)活動に関する演習科目』履修がもたらす学生の変容」*Journal of Quality Education*, Vol. 3, 111-134

文部科学省 (2017a)『小学校外国語活動・』外国語研修ガイドブック 実習編』

文部科学省 (2017b)「教職課程コアカリキュラム」

日本英語検定協会 (2016)「小学校の外国語活動及び英語活動等に関する現状調査報告書」 from https://www.eiken.or.jp/center_for_research/pdf/market/elementary_press_2712.pdf

野本 尚美・平塚 紘一郎 (2019)「英語教育のためのビデオ教材に関する実践的研究」『仁愛女子短期大学研究紀要』第 51 号, 29-33

大槻 友紀 (2020)「小学校英語教育を担う教員の意識調査と支援の方向性」『国際日本学論集』第 12 号, 65-78

Putri, F. H. (2019). Youtube for self-regulated language learning: an EFL perspective. *English Education: Jurnal Tadris Bahasa Inggris*, pISSN 2086-6003 | eISSN 2580-1449, Vol. 12 (2), 42-57.

東京学芸大学(2015)「文部科学省委託事業『英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業』平成 27 年度報告書」

東京学芸大学(2017)「教員養成・研修文部科学省委託事業「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業平成 28 年度報告書」

山内 啓子・作井 恵子 (2020)「小学校英語担当教員の研修に対する意識調査」『神戸松蔭女子学院大学研究紀要』第 1 巻, 189-200.

Zaidi, A., Awaludin, F. A., Abd Karim, R., Ghani, N. F. C., Rani, M. S. A., & Ibrahim, N. (2018). University Students' Perceptions of YouTube Usage in (ESL) Classrooms. *International Journal of Academic Research in Business and Social Sciences*, 8(1), 534-545.